

# 定期的に受けましょう! がん検診

## がん検診を受ける前にお読みください

- ◎がん検診は、早期発見・早期治療のために症状のない人を対象にしています。  
自覚症状や気になることがある人は、がん検診ではなく早めに医療機関を受診してください。
- ◎医療機関で治療中または経過観察中の人や、がん検診や精密検査が身体の負担となる人は、検診を受ける前に主治医とよく相談しましょう。

がん検診のメリットとデメリットを正しく理解し、検診を受けましょう。

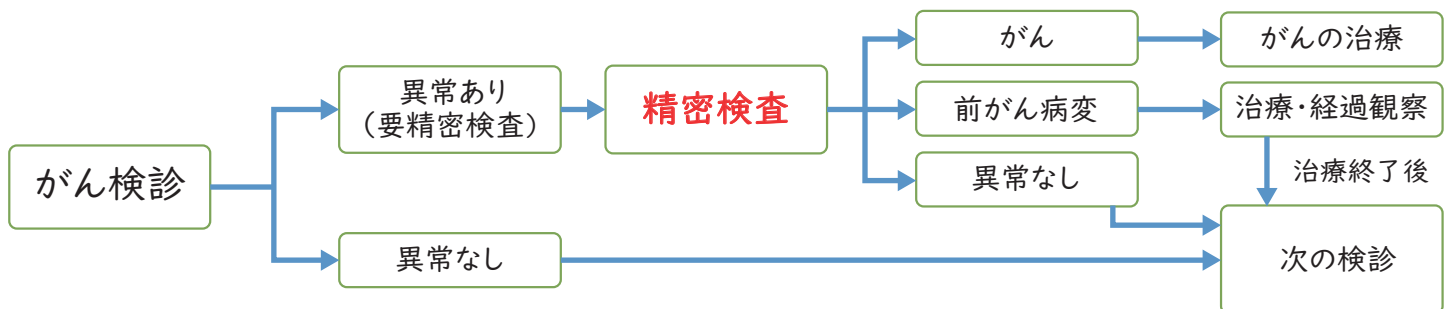


### メリット

- 適切な間隔で定期的ながん検診を受け続けることで、がんの可能性を早期に発見することができます。
- 生活習慣病の改善などでは予防が難しいがんを検診で発見できることがあります。
- 早期発見できれば、負担の少ない治療で完治する可能性が高くなります。(80~90%以上治るがんもあるということが分かっています)

### デメリット

- がんが100%見つかるわけではありません。見つけにくいがんもあります。
- がんではないのに「がん疑い」と判断され、精密検査により身体的・精神的に負担がかかる場合があります。
- 検診や精密検査を受けることで、健康を害する場合があります。(例:バリウムの誤嚥・内視鏡による出血や放射線被ばく等)



### 主な精密検査の内容

胸部(肺がん・結核)検診	胸部CT検査:円筒状の装置の中に入り、胸部の輪切りの断層写真を撮ります。 気管支鏡検査:口または鼻から内視鏡を入れ、気管支・肺を直接見て観察します。
胃がん検診	胃内視鏡検査:口または鼻から内視鏡を入れ、胃の内部を直接見て観察します。 生検:病変が疑われた部位の組織を採り、悪性かどうかを調べます。
大腸がん検診	全大腸内視鏡検査:肛門から内視鏡を入れ、大腸の内部を直接見て観察します。 ※便潜血検査で「要精密検査」となった場合に、便潜血検査を再度受けることは適切ではありません。
子宮頸がん検診	組織診・細胞診:コルポスコープ(膣拡大鏡)を使って、子宮の入り口の粘膜表面を拡大し、観察します。 同時に、病変が疑われた部位の細胞を採り、悪性かどうかを調べます。 HPV(ヒトパピローマウイルス)検査:子宮の入口の細胞を採り、HPV感染の有無を調べます。
乳がん検診	マンモグラフィ:疑わしい部位を多方向から撮影し詳しく観察します。 超音波検査(エコー):乳房に超音波をあてて、乳腺の状態を調べます。 針生検・組織診・細胞診:疑わしい部位に針を刺して中の細胞や組織を採り、悪性かどうかを調べます。

- ・精密検査受診費用は自己負担(保険診療)です。
- ・検診や精密検査の結果は適正に管理した上で検診機関や医療機関と共有しますので、ご了承ください。
- ・検査の内容は、実施する医療機関や医師の判断により異なります。  
詳しい検査内容については、受診される医療機関にお問い合わせください。